

障害者の就農を支援

県がモデル事業開始へ 来月から

農業分野で働く障害者を増やそうと、兵庫県は7月から、就労のためのモデル事業を始める。障害者に農作業を教えるとともに、受け入れ農家に橋渡しをする「就労サポートター」の養成に取り組み。農場実習を重ねた上で、今秋には課題を整理し、2012年度以降の雇用創出を目指す。

モデル事業には、県立淡路景観園芸学校（淡路市）や障害者が通う県立あわじ特別支援学校（洲本市）などが協力する。まず、就労サポートターを養成する研修を7月からスタート。農業知識のある団塊世代などを対象に、障害への理解や農業の現状などを指導する。

研修後の8月には、淡路島内にある数力所の農場で約1週間、特別支援学校（桑名良典）の生徒とともに農場実習を行う。指導法について検証したり、個人の能力に応じた農作業の在り方を評価したりする。

今秋以降、サポートター養成や農場実習の課題を洗い出す「プログラム推進会議」を開く予定。自治体や受け入れ農家、特別支援学校が、就労への支援体制について話し合う。

平成23年6月8日(火)
神戸新聞 朝刊 8頁 地域経済版